岷江入楚

手習

第五十二

特別
へ12
4604
52

N12 ⅞
4604
52

宮城県図書館蔵書

手習

十五歳 大将花鳥の巻 [illegible]

私童 十六七歳 [illegible]

[illegible]

けりの巻 [illegible] 翌朝の事をとりていつるとかの

[illegible] 十六歳 同時 [illegible] 十七歳の春まで [illegible]

横川僧都母尼并妹長谷詣 宇治院樹下の変化物語

宇治院 [illegible] 妹尼養性事 此女則 [illegible]

宇治住人来僧都 [illegible] 此巻子蜻蛉巻始 同時事 並横

並丸 [illegible] 蜻蛉巻 一向 [illegible] 宇治の事 [illegible]

[illegible] 彼巻 [illegible] 二巻 同時の事

小汀文庫

48 3721

設車二両載件女谷帰小宛事
四五月間其女悩給事
傳都姫君女共聟中将訪横川僧都之次来小野事
中将目蕭隙見此女事
一宿横川事
廿之日中将来小野君一所事
中将念彼女事
八月十余日中将小舞特次来小野事
中将吹笛事　君君小合物音事
九月姫君天系長谷事
女共将来并変事
中将来小野事
中将不来
横川僧都出京之次来小野女君一所事
舞作来給僧都出家事
中将又来逢舞作来出家事

立田又逢文事
姫君来自長谷下向事　次中宮御物忌事
横川僧都年加持一示文来事
陪下宮御院変化物也事
大将念人小宰相君立御方御僧都物忌事
僧都登山之次来小野事
中将来小野童姫君之事
中将目八下隙見目習君去歎事
廿六歳　大将
私花鳥之廿四歳乃春と有り　廿年之内廿六歳也
此之変況　廿七歳乃春　此年之三年乃相逢有り
花鳥之之年の相逢有之
春初小野住居事
大君之之孫紀伊守小野事
紀大将及子舞来出来事
舞来図之絵事

小宰相殿ハ信西物語ニ昔大将殿事
大将殿山中堂ニ沢欲訪横川事

平習　美谷ハ詞号　花和

何

浮舟殿ハ[illegible]

[illegible]詞美の中ニ四ケ所あり此ハ[illegible]

[illegible]

花

詞ニて巻の名とせり　意大将殿ハ[illegible]

[illegible]

秋

巻名ハ詞号之習ニ[illegible]　意世六七歳事

[illegible]　浮舟のうせて翌日事

[illegible]　小野ニ事

平

美谷詞ニ[illegible]　意世六

[illegible]　浮舟のうせて[illegible]の翌

[illegible]

家

習の詞ニ[illegible]

[illegible]

八十あまりの[illegible]五十[illegible]

比叡山三塔東塔西塔横川

[illegible]僧都と云恵心僧都[illegible]隠岳横川谷

仍号横川僧都母事妹安養尼[illegible]

[illegible]

[illegible]横川[illegible]恵心院の原信

僧都[illegible]

[illegible]

[illegible]

世栄といふ[illegible]往生をし人々[illegible]物[illegible]小[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]比叡[illegible]時代[illegible]僧都恵心の僧都[illegible]

[illegible]河海よりみる事

傳記曰件傳都者大和國葛城下郡人父者石部正親母

清原氏也母夢天人下授一男三女[illegible]覚後四人共可成

弘

聖人孫思之其後彼母令祈請子息於観音長谷寺之処夢

中僧来令与一珠見手不久懐任生男子即恵心僧都是

也成人之後有事縁登山出家授戒修学之業既成論

義次擇国世被召公請預種々禄手為最初得物之間為

令悦令送其物於母之許母返報云吾一所送之物敢不悦

一所願者偏道世俗道之営也即随母命止諸縁隠岳千

横川谷修浄土之業寛弘元年五月十四日任権大僧都同日

辞表一期一所修善根者念仏二十倶胝反転大乗経五百五

千五百巻奉念阿弥陀大呪百万返尊勝陀羅尼百万返

千手院羅尼七十万反佛眼不動光明真言不退注進

又一所造書籍雖多其中往生要集三巻一乗要決三

巻殊勝宋朝明聖小見往生要集権化一所作称讃

嘆寛二年十二月十日朝飲食如常洟口無所痛捕

仏所[illegible]念仏数百反眠終給年七十六而已

大和物語云何[illegible]

[illegible]
花 僧都の母堂をつれ[illegible]恵心僧都といへる母のもとに
その親をよび[illegible]
[illegible]
秘 源信僧都の母を谷の親をよび利生ありて僧都と生まれ給ふ
[illegible]
美 源信僧都の母を谷の親をの霊ありて源信と生まれ給ふ
[illegible]
[illegible]
秘 僧都の母堂の[illegible]
仏経[illegible]
[illegible]
[illegible]
奈良坂大和

[illegible]
実 僧都の母なり
[illegible]
宮居し[illegible]
[illegible]
実 僧都[illegible]
[illegible]
実 千日の[illegible]
何 恵心僧都世 安養に 終焉の時者必寸来會之由僧都
契約[illegible] 而僧都千日山籠之間自尼許示遣云尤病サ
[illegible]籠成[illegible]今一度對面大切に雖無限日数[illegible]山籠雖
出洛可然者来輿寸来會西坂本之由返答キ 於下松
辺相待之処輿已到来僧都進寧蓑麻見之処尼上
既逝去相共輿到清義房 修学院 清義先心経七巻讀之
次以火界呪加持之恵心天奉念地蔵則蘇生[illegible] 古事談

みちのくにまで
いそぎおもむき給て
信濃の下山し
かくしもあるなかに
信濃の母のとうとうるるとき
こつこもてはゝ中まゝあるこまり
こつこつい信濃し
うじ〜さいく
河加持加者仏三密也持者行者三業也三密と三業に孫ち
るとかゝるとよし
みちけけうじ三修とてこかいの人
花金峯山精進の後夜於庭ふれ物金峯山百度すとき
山あるこ〜みちけ精をすとき山ふるこ〜ふれ精を
のけるこし
いてせばくむつ〜くこ〜
山宿のこゝ

業半逢

風ふくなどこまつるこまき
将井加持のこゝ〜あるこ
みくみくこ〜
花古人云長神也云し当中祈天一祈有中央なり
第十本巻ゝ動付
きいすこゝ
花尼の星小聖ゝ
業尼云ふもむ小聖の
九朱雀院の御領小て宇治の院とし
河平等院建立ふるこ宇治院遊猟
花李部王記天暦元年十一月三日太上皇陽成院御宇治院遊猟
山野又天慶八年十月十日朱雀院宇多帝庄牧勅文云
宇治院萱原庄被留後院
と業朱雀院ハ寛平法皇とゝ
ふるとけ物ハの朱雀院
ふるこ
和平等院ハ朱雀院の御領とあれ別のこゝ位宇多の御門

御覧ぜられはべりてのやうよりはじめ
平中院の御ぬし六条院の御ぬしといふ朱雀院の御
領しうけたまはりよりはるかに
家平中院の御ぬし不審
ものの御ぬしきの
私院のうへの御ぬし
御ぬしのかきな　平宇治院の御ぬしの人に相ぬしてあやしき御ぬしのやうなり
家　御ぬしの御ぬし
かしまはや
御ぬしの御ぬしの
御ぬしてのうへの人いるとも
るとやうの人の宿とるとも
いとよのうなり
家　僧都の御
かりやけ不なれと
家　朱雀院の御領なれとも

とりそうなる三つむなる
私宇治院とうらにて僧都のりまうむの御ぬる平
御ぬしの宇治院をよろしくるあるうらにかれ
私ぬしの宇治院をよろしくるあるうらにかれ
実用　やうの法師と二人
家といふの僧都のうちに
御ぬしの御ぬしすると
人のうしろにかやうなる
さやうの御ぬしぞくにはいんとつくて
花下とむもふをつくるとて
私退くにはやうと給へて
うちのうミあるいふとうぬ
何　ものの方の毛賢いふ唐人の御ぬしの髪ぬ行すと作る
私　法師なれいくいつて方の毛絶ると俗人の髪ある人
ぬるとも　ぬるとも
実　法師なれいくうとうの方はもうるるなり

私 動物云桜京より下り行き地の不よいま我が所にて出せ
所をそこうとてまいりるよ多くとり行おるよ
所よ木乃茶のいとそるやうにまりのるいらの多つや
をそはそいうきれ線をして出さ化御興乃ろ元の
らゆきあ元まよのしられけるくのよいさう
てそうとなるら
花 南海乃孤ろるいよりふたいい狐のよ変化せ
るるはものの孤と数うてあきづるて
みをきるくのや楽府乃古塚狐乃羽しく公変雲
鬢面変粧大尾曳作長紅裳とりて狐のあし
変ろるするとて変雲鬢とてこるる
りてうらうこ
るつ
私 私枕冊子に用ものけあの孤恋
あるなきうあるて
興なきや思ひしら

私 僧加乃羽
河 水孤云欽明天皇美乃國よある男ふるきせとりむ
こ地のまうるしよ野中よ女よあしい行よきうれと東う
して男子一人うあるうて自日とるをよおるよある大
十二月十日よるとうてろしくるるのとる
うよ乃ろこれいい女いらくるられて男よろをしい
れるきうけるきこのかるめ行るかくしを物くをを
んをうすの風くよきを対けたうつきて
妻乃女をくをもを女をいをして野午にうて
まきうのよのり
帝王系圖云同附宇三河國狐成人妻
古塚有孤妖且老化為婦人顔色好頭変雲鬢面変
粧大尾曳作長紅裳徐々行傍恙村路日欲没時人静

処或歌或歎或悲啼　　白氏文集

夕魚巻注載ス　　定河

五通ノ中ニ神境通トシテ有ラレハ妖通報通神通
花
ナトヽシテ差別アリ狐狸ナトノ人ニ変セルトヽ妖通ナリ
ハ敵ヲシテアルヲ。希有ニ人ニ化シテ怪ヲ為ル通ト
ハ敵ヲシテ死ヲシケルトヽ報通ナリ
又変化ノ物ヲ
ハ過去ノ因行ニ引テ変化ト云フ報ト云フ
きようて果報ノ通ト云フ聲聞菩薩仏ナトノ通ト
シ弥通トハ出世ノ像ヲ以テ示シ弥変ハ
思儀ヲ通シテ示ス二乗ノ通ハ菩薩ノ通ト云フ
菩薩ノ通ハ仏ノ通ハ又ハ理ノ通ト云フ
かりてかいす
実　信施ヲ
こゝ　不ヲ
花　広厨子ハ食物ヲ悔ル所ノ名
私　広ハ食ノ物ヲ悔ル所ノ名　広ハ食物ヲ悔ル所ノ家

長言ヲ人ニ化シテ人ヲ惑ハスヤウナル
私　変化ノ物ヲ云フ
妻　法師ノ人ニ変化ノ物ヲ見ル
茅　長言ヲ下ヲ
ひさうれんこう
非常ヲ
なにのうら人ヲ
死人ヲ
きつねこたまつりの物のあやしむきて
何樹神　天木神魑魅魍魎　空谷響　大日経
左傳注曰魑魅山林異氣所生為人害者也
欺　和名　久詩
けづこしき
ちゝ院ノ御領ヲ
こしあうろう
何　和名
つまとなき人ヲ

あやしの法師よりはいとをあけて
私 風と雨と
実 はいとをあくるに 破乃ふるまに私額よりひなて
あてまつげさしうるれば
ふるいとをたゆるや
法師とも乃宿りよりて組
とうもあるねやとて
実 何のともなけよやとりれいて
まして地乃ふるに心をうせうるる
実 ふる地乃ふるに心入ふるとやとりうる
天の阪乃えぶのかしまする
実 僧紀乃市とうし 天下第一乃険去とし
うるまま乃おうりや
花 大木乃下よりあるるに鬼となつけうう
むしあうえん目しなうけるめかるやと
花 朱の盤といよ絵地うう天弥桜の国る鬼の

とうう山法師なるようてきてつけるるといつる
何 文弥桜目を呪れ旧詞より目鬼と号も
私 目なし呪のあ実 ありり
いきさ海とんよこせんと
何 幸 イカヒ カラヒ
花 いつくしきとてつけうけき
私 いつくしきし実 威勢しいきろしとみるふ
あふまれ
何 あれ
面いくうあれ
私 此面則字弁乃入乃の翌鬼 幸実
うきのりとよ紀いるさあ
実 垣の下七形乃下のつれ
池よとうくうとらよたう庶
実 池魚とうふうしの奥出禽歌まてもの乃うをとて
あもけさん 第山法師乃伝よあ法とし 僧紀の組

花或ハ云
私云横死下
須弥四州内外
の人横死あり
まして
年の齢を
東南西三州の
人は離るに
拙僧思と為
してたとえとつねよりねてくいてのきうつ
うつうつ人は横
死あるべきと 美自業自得果の理なれば
けれ俱舎に云乃大とうして
ある中或律
僧のもし

人よとられ
私普門品にし或被悪人逐といへる横死 茶師注
九の横死あり 美 弄

人よをうううして
何訴 かりコウ

弄 人よたをうれふ心

うつうの
花横死や非分の死とも茶師注ナルの
横死と云せり

弄 人よ被逐ふ

人よたをうれふ心

美 信紀の母のも
めよみもも
花みるるるる

閑車よせてかりのよりいるるるるるるるるるて
花 后君ふれまてい宮殿院ようつり伊勢
私 后君ふれ来ふ心 美
物のけどしなる

少典巻とあり
ふるるるのとり人辛よあるるるる
花是は信紀の羽

うちきくまにそのふふてう美あるる
花是は妹の后君の羽
私妹の后君とるとい伯衡 弄
いれよてもてみるよ

妹の后君
ふるるのこれるるむ女をめれてかしる
花信紀の妹の后君とうて人の妻ふてきてう女をうし
るしてるるるるるのあまりよ后ふかうして后ふるるる
ふふ女い中ねとて人の妻ふてきてるるる

いっかりて人とはあらねど人い
秋ちらしたてまつりける人に見せやはなにとはいまは
とはるるまでいかばかりしるしあらばこそ
めとかりよりあけてるよ
業深あるさはし
うとかるのはあよ行ゆくいのる
河弁分経
秋心経と弁分とてかかりまつるもとといて業
くてうてて三と
業物のけどとく胴して市のほとをうとく
あなうはあよきうをれ
秋僧都のいるし
まつりしきま
業いっかるる人はと恐怖心
さすのときくめこあけるて
花月と見上へ　又見ひくと

あれいうやいうくなるとうの人の
花妹の石のあるしむをめのりりようんと思ひる
中くるるまをや思ひんと
業深あのなくるるるい泳思ひんを
いよいてうるあやしきふるのん
秋白黄の羽　業
河不用
地のるとうれと思ふよ
業妹の石の羽
りの地やとうるよ
秋変化の地と心　業
河假色迷人猶若是　直色迷人應過此　白氏文集　古塚孤
百ばりこりかて
実　院ひるるりりりり二日ばりりや
ふりりのんを
秋奴の石云と　けせとと　業

[illegible]

秘 宮治

[illegible]

家 宮内の御もとゝ[illegible]

[illegible]

秘 宮内の葬送

河葬送　雑事

美 宮内と送る　夜の事　夜葬送と

[illegible]

[illegible]

家 [illegible]

[illegible]

秘 車と[illegible]

[illegible]

家

美 葬送　[illegible]

[illegible]

秘 大宮の事なり　家 年 宮内の事とそね

姫宮ときこえてまつり給て

花 [illegible]

秘 女二宮とし　家

[illegible]

家 [illegible]

[illegible]

家 天一の方のあきらる

[illegible]

宮内

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家 宮内

秘 [illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 大原し　筆 大原し小地の内
河 伊勢地方より小地へ移りてきたるよしの口伝あれ
雪いたし　小地は大原の西の比叡坂をとりて小地
て内大原村也　布施とて地あり　皇太后宮大原より位拾
ふ時人号小地皇太后宮
花 大二条関白の女勧子后宮なりて大原よりそこ作りと時
の人小地の皇后と号す　大原い小地ての内
秘 病去られ后宮なれ　逆臣あるし
筆 信頼の母のお渡し
筆 美の字橘の字はやはりうつり
筆 中人のもむあるよ　地頭の人の宮殿院より
筆 宮殿のうちにて人の
よりて　逆臣あるのすてとさる

ゝ
月なしてゝ
深草の人のなきさ
筆 旧流小て居宮の
けし
秘 讃摩也邪気ゐい芥子と讃ゝのたいよくし
河 邪気祈法し　讃ゝ壇ゐ焼芥子あり
筆 加持物とて讃ゝ芥子
宮五脚しる
秘 音よりむし卯月さ月
美 卯月さ月の
あの仏京よりて
花 あの仏ハ上の方けて信貴と云ふ
京 四天王人とて
るもの

秋

僧祐といつてあるよそてよい此坂下まていとろし 業

いとあやしまるる

僧祐の詞

ごつまよりとろと

河命業尽

ろこいかごこて

妹の居の僧祐のかりのいるとろうと

ろろいむつしきる

祐むさき不淫なる氣のなきと

かかるくなるく

秘念此よ心要 業 妹の居の僧祐よいと

こつけしまりめつるなる人の

業 僧祐の詞

人の御ろめいる

河ろそかいる

秘容面ル 業

要境談ル 足の東洋

くどくのむくねよ

河端正者忍辱中来 大集経文

花法華経随喜功徳品よ面悉端厳為人所喜見

秘戒行の功徳るるしと 業

業 花鳥よりり

りさやときてあるせら

秘ふるり祐のあるルト

業 誰ときこあるるとなきかと

ろよいつもの就者のある

秘妹の居の詞

ろよろしえろしいても

秘仏し種なるるあるる祐ましき

しなるるいての

花法華経伝縁起 業 今業一切色諸法種子と弟

八阿頼耶識含蔵より保倫縁よろろいて現行し

て仏と成せしなる祐し たとへ業本の種の土地

[illegible]乃縁とうて生れ出せるつとめ[illegible]孫なれ
を現行をす菩薩乃慈悲ましますとうれし
人の宿縁なれとあれとみらいよりの孫とする位へ
[illegible]次阿弥乃親者し山賀乃[illegible]
因果をもうて宮本乃[illegible]
[illegible]
かやけのうしよりたるつ
[illegible]
[illegible]乃法師かて
何無慙法師
花唯識論云云何無慙不顧自法軽拒賢善為性能障礙
慙生長悪行為業
[illegible]
何諸戒の中より兼強罪はとのつつ[illegible]細隠罪はとく
くよりあるなれもの[illegible]五戒八戒十戒六兼強也二百五
十戒五百戒十無尽戒一切威儀戒六細隠とこ[illegible]

秘戒乃中よりやるるなかれとと
実何酒乃抗之なて下見うる戒とやるなかれとい
[illegible]乃紛
実比丘は二百五十戒比丘尼は五百戒也
女乃をちよつけて 花法華経安示行品ニ又菩薩摩訶薩不應於女
人身取能生欲想相而為說法ニ若為女人說法不露
実女犯の事 歯笑不現胸臆乃至為法猶不親近況復餘事
とうとうよりもきかん人とうしたるへきかなと
秘とハ行といんをつとうとるとかすと
実[illegible]
私乃弟子とうとうよつけて乃信仰の紛
ようとうね人とうと
秘又弟子とうとうのつふと 花
いうとうきもとうとをしらしれ
実行去乃孔を行るよ平生乃除習乃行とけ時乃死よりも
ていのるし 実秘
人ようとうて

秘ようとうましと 平

てうせて
付調伏也
笑うの人ふせ法
むしいかこうしせしたしかいさつる世ようみとうて
私 絆青鬼のかとしいろう
実 金峯山の行者 絆青鬼 柳本紀僧正なるのかとてふて
うう紀僧正真濟 恵亮よ仏法のうりて魔界しう入
なりう 坂よ慈恵僧正の御よ祈願して 慈恵よなりて
生ようせ
弄 真濟僧正のかとこのうかあうしかやう
何 貞観七年比染殿皇后為天狗被悩稍経数月所有験僧
侶無敢能降之者天狗放言云自非三世諸仏出現者誰
降我亦知我名 爰相應和尚應召参入両三日祈候無
其験還於本山奉対無動寺不動明王啓白事由愁
恨祈請于時明王背而向西和尚随坐西亦背而向東和
尚又随坐東亦背而向南和尚亦坐南流涙弾指

聳首和尚白而言相應奉戴明王更無他念而今有何
犯過相背如此乎願垂悲愍可告示之 胡朧合掌奉念
明王本誓合眼之間非夢非覚明王示云我依生々加護之
本誓有難去之事今顕訖其本縁昔紀僧正真濟在生
之日持我明呪而今以邪執隨天狗道着悩皇后為思本
誓誰彼天狗仍以我呪難彼天狗也以大威徳呪加持者得
結縛之便凡此告之後不堪感涙頭面接足礼拝恭
敬後日依召参任明王教誡之旨奉加持之間結縛天狗
自今已後不可復来之由帰伏之後解脱平則皇后
復尋常
或記云むしし僧侶の皇后にるやうの時金峯山より久修
絆行の行者まりて加持をる事金峯の仕なよ
絆 つて後来の行業を廻向して誓て鬼ぬ
絆青鬼とて後つるよ后とうるうるまつるを
智徳大師祈うるよ誠しるれ八絆青鬼しぐ
ふ多ありてその后よりなうこ后のうくるなりて

きしよう[illegible]のはは后りものとなるよう祈るとき
善相の乃花[illegible]女今[illegible]大師乃霊[illegible]いなきやけ
滋賀と人朝熟と人は此世市多之
[illegible]花乃あるうすとすもし
花宮法の優婆塞[illegible]とるる[illegible]いうるたいてといあけま
花乃お者のもの
付 大般若経に如有女人端厳巨富若強丈一所攝議者為愚
人之陵辱
[illegible]いうしなれてよ
実 大丈夫なり
[illegible]乃人いと世とうこと
実 法身心
観音とうほうこほし
伯[illegible]乃歌[illegible]の大悪とこ[illegible]
つよ[illegible]る人地をつなきけ[illegible]
私 法身乃ようさほし

ほうじ[illegible]乃人[illegible]い
私 法身なり 花
いうみし人乃ふいいうもなると 法身実乃
花宮法すしう人乃ふいいうもなると
くふ性しなりて[illegible]
つまでとうらして
実 身となる人とも時の市と法身の心の号いそうほし 花
[illegible]きこし人のしるとて花霊の人の現てみもるとと自[illegible]
私 白[illegible]とうし
かいのとしとす
花如来[illegible]身となる人とも市
私 入[illegible]乃市
実
[illegible]くの白[illegible]
私 六月の時[illegible]
実 [illegible]
実 法身乃ふ[illegible]

いつまでハつく
言ふ乃詞なり
うらかへぬるきに
花 温氣也 ぬるけの事也
案 まつひのるハいりて見ゆるを
なまくるしむかりなく
言葉の心あつてみさゆ也
ゆめハないつて忘れ人と死し
浮舟乃心か定とどげやと
いたうねびて
浮舟乃死なんとてされかとうしていまハ命なれハ
つきなし也
いくやうしきへおと
案 生きのびし也
おハいそうとそけさせなる
案 五刑ハ言ふ心よしハり

心ちとなられと
浮舟乃心言よ安まてらしかりなるを心ちとなしとる
おもてしお人の心まて
私 うき舟の心やハりなる人を
案 物とさハやうしくあきらかねやうの也
英乃やう称る人
浮舟の事言葉のむまでぬる也らしくある也
うちやうつれさしてくしきられまて
髪乃らつくしまさ也
一とせふうねつてもつこ
河 百とせに一とせたらぬつくもかみ我をこふらし面かけにみゆ
花 葦草中ねとつゝまらハ女をこひさせてある其乃詞ゆつく
もつこハ老人の髪海の藻とつるふるなまくしろうこうかい
しかうハ女らしのかけるをいふし
私 老ハ人ちかふりある也 年 案
天人乃あまくだれる
案 竹丸の事ゝくへきこ序也

あやうき つらそれと
天人なりてけしのうせもしてあやうき
私 けしの隠遁皆竹丸の扇のくや帳とえるなのいそっそう
ふうりいうくるきこうゆるる
后宮の海水とうくみていと
いとつつしと思ふ
海水の心
まいりくるかきるる木の
りくはくこの文のうらの扇より
業 業花物語よりくのとくあくとき
くや帳とうつけうくえ竹とうの扇より
花上の翁よいうくき 天人のあふくるをくえ
けりてあいせてくや帳のやるるくしや
私 くや帳の物語のこ
いうる物のひうくし 万葉の竹とうこうる
業 り求ふねとうつけてくや帳のやるるくしや

みとまくやせんとくんとも
ふのあるくしもあてなるくなりそう
花 信物の母宮をとるくし 年
むしものあるくいんくもめうふのふて
業 信物の妹也海水と号るあけうくん
花 小野后小太兵衛の信宮やとうるせ 又長門うき
梅の実をまるそう
その人なるなりて
妹の后の実の弟
ふ紀宮ふをむこうて
業 宮よ年ふ海かねし
ふふふ海人のうるみよ
業 むものうるこよ海あとるる
祈しよふれと
私 后宮の弟 業
昔のひとをもいふの弟とるやう

秋 宗祇 業

花 宗祇ハ上ノ方ニ有ル事ハ上ニ小野ノ小町ノ事ニ

詠ト云フ事ハ上ニ和ノ事ニ

門田ノ稲ノ事ニ

河 伊勢物語ニ云ヘリ

つくつくとうちうちこれと形容するとて

きかもの物の音ニ

けるとていらしの事ニ

ふるひよりとそ

みしあつまちの

秋 宗長ノ句ニ 弄

花 常陸國ニ

かの少将の

花 少将巻ニ有ル事ニ

業 高業ノ所不ル

秋 業平ノ地ニ

ふるとて弄世間ハ又宗長ノ句ニ

河 ふるけてもむかしの

秋 ふるさとの月よりもまく 弄 世間ハ又宗長ノ句ニ

ものかな

世ハ月ノ名所

秋 小野ノ名所ニ

かすかの

秋 名所ニ

昔ヒ

秋 宗長ノ句

ふるさとの

花 ふるさとの

地ニ

秋 宗長ノ句ニ

宗長ノ月ノ

てるらし

秋是ハ習ヒ

俗本
○男となりし瀬乃川のせや世に思ひけるけてくれむらし
何事も心乃中も我がくけしぬ恋ひしとをみてとめよ
哭語らいめしとれの事とよ
○俗本 きまりしらしろやうし 私 きまりしらしろやうし
我らくしてうき世中にめぐりこしれハこひ人月乃夕やとよ
私云あはれなる事をいへりあはれてあはれの事とも云ふつまの
なり
うしろやいはまし旅人
うし里ハ母君めのよの事を大事にすしと云いへる
ほとゝぎす人乃ゆく山里とよ
秋 此山里まいりきて人もなましとも
みしをうつまゆきうれし
此家にあるうつへ人の来るの中を忘れて人て
乃あはれ云もそりともふりて思ふよし
うし後撰らしてとて
何上東門院乃人まつしねかとして物あり 業平物語

みちのり此物語乃伊勢にもしねきあてきしきありて あり あらそ
つまきハ云の心に 文卿家歌合 亭順判 作者しこしきな
とあり 見須恭集
むかしみし旅乃都にいつるとしらの
何古 みしかくいさこときりん都をうつし人へ
花 昔みし都の人をといつよし都をとかくれなり
又主の宮人ハあつやなりしやとくハまかしきれしに旅をおよ
似ス かくはいなきはかし
私 花鳥抄云珠勝乙集
異 都乃人に似る所人のしとおもし
世中にあるね不いこれかや本なんとを我
花拾い あの中にあるね不しえてしかうしるまけるうちへ
私 あに母と宮沼まて乃贈答の事と云るを別乃川辺
いふ業平の私
異 うま世ハあるね不とりしめても君の心とみまほし拾遺と
深き母のあらし守と云ふてある 川辺云悪し

まうしうる（おなじ）ある
深草の帝と申すの事にあるべし（以下）
ある人云々
花　そこにある人まくらのおもてをぬとしよみし
私云　しらしらしらしらし
むしのむこ
第　后宮のうしなひし女房のことを
別くらのぜんじの妻
第　中将の弟を信加の弟子とさせり
横川のうえ人たちよ
横川（小野の）のうるうるのうるうるし
さいしうといてあてやうある男
花　中将と小随分とすぐするようにておの文と教をあ
なり
実　中将もさいををぶをおぼしまして帝
ものしやうあてかりせし人

私　深草の心は黄の事なり
実　白雪の心は白の事也　第
古礼といと伝聞なり
実　宮治の心里のおもあり
ものかのようへときいるるてし
第　なてこいとくうさくし女郎花梗秋の和名
さいしあるといつ
多くの乃ものすする
中将のとしの人
実　しかれしけうそく
第　中将と指衣をきうる
うし女七八の年
中将の年齢也　年六七とあるべしを
伝ちなるね　第　あるとしの
うしろの乃つもりまい
私云　実の初

山のうちわかれなるましらくいのなりに流くて
箋 中ねの詞
秋 私 中ねの心しとうしろいとこそより中ねの詞し
私心のうちといへより中ねの詞をきこえまゐらせさせ中へ
よるよしるとしかしかれねとし
そこらまれなかなる
秋 后宮の世をなれ候御すめ御事にはしのつゝ陳をするとし
弄 后宮とも世をきこえく住まゐられいとのつゝ中ねのきこえ
御なるしかこふるなる
山こわりしらやましく
也おも世とすて山住わりしらきまる
つるよ出ら侍るを
卿も新らしら出て出立まし女うらなすの国道あるなな
ものなるらねなれ侍るなる
たゞしまたは御なる
秋 国后もまよえて人らいさなるなる

かふはなをふきしきて
付 略ハラク 着 同
花ちくうら出もらかたを散らちとしのなましくいなれしなす
をなれ侍るしさ海さけられてこうくらなるしぬすなへ
ろれ人ととをふきすなく出もち御よしことをら御
山こわりのはうやうは
秋 后宮の詞し
いまやうらたなは拍手をし
箋 ろれハ人ま孫の山すらとしいへし
むしとあえしますれぬ
箋 むるあの御事
秋 小中ねをは小吉しあしとそら御されしと世みなたいを
御おもくいひ いはかくま夜中納言のしるしのあるれハ小中后とらへさる
付水飯
人ゝよすいりんなりとやうの物くせ
秋 ひめの飯といふ物
丟 ひめといふ飯よしえりしいとよ

付蓮子　遊仙窟

柘枝一曲試春歡　天天

燭淚粘盤豆蒲萄　円

酒劒送盞推蓮子　燭

一説云水飯并盃とるとて出けるに菓子の中に藕実

藕実とは蓮のきよすのこと　或云友乃舎なるべし

盃とるすのことい人もあ

まりよとひかるる

いかりなくかるし人

和云云乃心中ねとうえ人のせんこうらうしまと

なるとすれしることとなる

和ちもしめるもなりうしまも

第不及引手こみのなるうしまも

とはすかるもしいこの

和さしもなるあのあ

第

付蓮子　遊仙窟

第深夜乃事とくうもいつまとも　平

ひめ云いもれいもれいるいつる

和此云　深夜心后云云昔乃ひめのまとをかい深夜云

我多乃昔れるとる也

第白をのるとうなるこ

ちろよひとこ乃いとるけ

花あぶやきるとけ

とあしひぶ多なるし

付檜皮色袴　藕芳

乃人多今著こ

花檜皮色面藕芳よくろ

和云の中よもこ多四よ

なるこ

第

くろをふをこ

第紅乃多なるくろこ

ふいくくいらきふ

和深夜の衣裳乃色

こしの君のかりしまるつらのを
第后宮のむしろの世
かるくいむしろのふしほそて
第中将しけふみとあつせるきと
あるいらや
私も君宮のいし
むしろのまつるもくき
ふみの中あるい強句薫をのるれ号出られてあ
ゝゝと
少将とゝゝ人
后宮のつるみを
むしろ人ゝは
后宮のかゝるゝ時の事
つゝまつるれゝ
けかねのかゝれる中将宮ゝるれゝ人と
うの殿ゝのつまりゝつる事ゝ

私中将の廊れ入まゝ入りる時の事
美后宮の図へ入りる時も君宮とゝ
私中将の入るゝ乃系絵まん
風のふいかゝりる
私面のかゝいつゝよさ海
なりてのふ海よい
第宮ふとゝるれのいたゝ中将のこふ
ひる宮のをいてゝつる
美宮の奥のふくをさをゝゝ
昔人いこゝふくかゝつゝ
第后宮の女の事
ふゝいつゝとゝふれゝく
私かねの朝
第后宮のいゝ女とゝふれゝく
かれゝ女人とえゝてまいて
第宮ふみと后宮のえゝふ

かぶりをしてあるなり
秘中ねの心 業 ほみの市
そのままもいたし
かねのかりとりくくとしてこそねし
雨しやあねしれぬ
業中ねの供の人の云
とこそ
河内
秘 習 業 ほすこ
業 河内 ほしのこあるとて
人の地にしと
秘 人このいるし 業
美 山地の人 中ねの人 地にと云みとうるていい
ふこ
きこけもあるまりくも
業中ねと人このかもるこ
ゆの人のうしきかと

むしのやうこて 芝し ほみ ほあと中ねよみをこまと
放中納言のかはりこまい
河 鬚黒大臣息 小野宮の
秘 鬚黒の具とこ
年中ねのうしこ
又一人こるこ 雅こ
ゆの人
業中ねの業の人 雅こ
ねとのこ
死 芝 ほ 業の ほみの業 ほ
秘 ほ業 習業 ほ
この
ほ業の人の親 業
ほみの親 業
ほ

よろづ事にしたがひてかはるやうなれど
月日とふれば眼前のやうにおもはるゝ事なりと思へれば
さもなしとぞいひはべる

いとすゞろなることにて
取て人にやらんと思ひけんすゑよいはひてかなしき事なりけり
浮舟乃なきをいとなむ
花 是は浮舟君乃有りさま也
なでしこの出来て猶子の縁を
秋 匂君乃詞 紀ともそへるをむへなき人となるれば匂君はいと
それはわかくろいへるを
ひとへみゆるにそむつましく
義 浮舟乃匂君にと思ふべし
うらみむとぞ侍りけるなりけるへる
匂君乃事也

ゑだとなきさうによ絶えて角きえて
中将乃横川におはしましてのこと也
ぜんじの君にまゐりたまふ物語
秋 中将乃事也 箋 弄
そのよしひらきて
秋 中将乃詞
世をそむけれど
美 小野乃尼としの事をかみてつ
かくしてかくかうしけるなり
箋 浮舟乃事也
そのつらあるれて
法師なきのあるよしは似たるを心へし
さし此君ゆゑの事をまつりて
禅師の君浮舟のなきかうしたるを
あはれなりなどいひければ
又中将乃詞

[illegible]

私位置の物語をとゝるに

私自余の物よりれる

[illegible]

又の日のつとめて

中将の御ゆかりの海人又来て[illegible]

[illegible]

いとゝやうなる美しき物

中将の又[illegible]

[illegible]

[illegible]

私中将の御

[illegible]

私位置の心[illegible]

[illegible]

[illegible]

女の事のたゝれるまゝ

いかゞにいとゝ物[illegible]

花物語しけきい物語

[illegible]

[illegible]

花

私中将の心

[illegible]

私昔の[illegible]

[illegible]

[illegible]

中将

[illegible]

私[illegible]

[illegible]

付美暦[illegible]

[illegible]

[illegible]

一うくきけつきあるる人
　后宮中ねの御事とそ
いとあやしきことと
　深草の院くらいにてもて
きこえさせつるやうに
秋おほよせのありて人よろ
　ひしいるまに
私これい后宮のうきふるまひの御とも
うつしうつしてこれなとこそ
私后宮の御
筆深草とむく
　むくろし
こうこいふしをぬしと
私中ねのつしをいとりと
筆こうこいけ家をうつけ
　中ねの御ふと

物ふるとまら
深草の物ふとあれと中ねの
こ書うりけりそよ　ほかいかもの秋萩しのきの物ふて
筆中ねの小野にりほ　こ書うりなよそかこ
思いの后ふしいて
　かねの后ふり
いへはそこあるはい
深草の后宮のきこゆる
まりしのこの后ふ
ける雅とこまつのこの后ふ
　后宮の御
　筆こ集よ巻こたくる
秋のくよりそれなる女郎
花小町の御ようなる女郎
とちき作ると中ねの
私引方ほ雅とこ
さるるとはうりと中ねよ
物ふるとこ又の

第八多賀素乃相之事

[illegible]

第是ハ別人ニ深無乃ちきりなる事

実秋ノ第ニ同し

無いたし　多賀

秋中将ハ右素乃對面し

[illegible]

中将の対

[illegible]

第中将乃ふやうちのるる事

[illegible]

秋つちうけする人ハ我身ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]　第深無の地ニて中将の一具[illegible]

実秋第ニ同し　多賀乃地[illegible]

なり

[illegible]

秋　[illegible]

つきなうぬる事

多賀素乃ふ事中将ハ一具と

きいハ人まていあり

多賀乃右ハなんと云事也

実　多賀素乃事を云

のうちにまよふ[illegible]の人ハ[illegible]

第右素の方ハ[illegible]

実　年死ハ[illegible]

世とこゝ[illegible]

死世ハ[illegible]

秋　[illegible]

[illegible]

第右素の実乃母[illegible]

[illegible]

業 [illegible]の蘭中へ入てもの習よいて[illegible]
人よ物をこゝ
秘 [illegible]
業 [illegible]
いつてあるつゝ枕どちらしなる
中ねの紐
秘 [illegible]
どちらなるてこちらかくるし 業平
中 [illegible]
秘 [illegible]
つまはもつりのすくいつれなき [illegible]
業 [illegible]
ぬとて
あれいつれをなるなて
[illegible]

いへをもよし紅の
[illegible]
あつ [illegible]
秘 [illegible]
花をやうい昔の [illegible]
[illegible]
秘 [illegible]
[illegible]
業
[illegible]
むてゝ宿のこゝ小をつ [illegible]
[illegible]
秘 [illegible]
世よあつと [illegible]
人よ [illegible]
[illegible]
[illegible]

よろつ物するにちかきは
実なすこと我なくとも捨られしいふへなくいはんとて
箋 君子の中とありて中ねとし何とさすことも人の
心ゆへしかりしやうくもくて
王のやくなしま
箋 年よりう源氏の人とかくとよ
きりなくうおるうう
私 君子の心し
廉のなくねしすと
河古 心ちは秋そことよるし名を廉の名くねなかとさまて
私 引弁冲の同し 箋
まことよろしちなくは
箋 君子の人との中ねとかもするにつきてしくいて君子
の心なり
ゑらしつる
箋 江君子のむそめのることを云 中ねの詞

いましめてあつれといふを人のうちけるかし
君子智者の心はらすましきこ海とうふことの派
私 とて君子は昔の人をうらいてらすしまた姫君はいなもて
あはれしもるもしと
みしねひちもえらるすまし
河古 よの世のきめみねひちはいかなるうちの人もやまなりとて
私 引弁日世のうきめみねひちはいかんもやまるなし
箋 引弁日中ねの心
弄 世のうきめの子として人の君子のうしきるもの
しまはなへにとらもあるましといへは
私十七 箋いさこの不審あそに世のうきめみねひちをしも
てしは小姫なるへしうもし人とらふと世のうきめみねひち
ふましきは氣色にされしは小姉と世のうきめみねひち
まして元ならはしまことにへるや
箋 こよ人とならいてねこのかたと是はうれ心よりこそ人のあしれ
こよ人のあしれはこの人ねひちうくえならまくしといへとはあし

すゞある東と流らんしさしつる
卄可惜 日本紀あたら夜の月と花とを翫しく心ある人にみせばや
花 万葉にあたら夜は惜夜又新夜とかきたり あらし
くるしき夜の心
なをつとらすは心にも侍ねれは
花 命乃絹まへしはまた見出し侍るまて
秘 川命東勘命まくていと心ほつまき也 箋 弄
かくふるきすまけれとも
中将乃心は浮舟乃身をなけれはゆふ海とあまりすさま
しきて
ふみもねさへあれは
花 后君乃笛のをまめて中将をとゝむるとて命とよ
め給へし
箋 后君乃さしろへ
后君 小つきし夜の月をあかれとおしへや山のたえまに背よらまし夜
秘 まへ乃あらし夜をといへる相とうけたり

箋 取乃は海山の瑞をきとしふ中将乃月をとゝすてかへ陰を
とゝめんとて いへり下乃心は后君のよりとゝめさせて山の
てちつきしころあれはをあかれといはんをねと
云へなり
な海ろふまする事をくなんのあふよとて
秘 えも君乃かあふに后君乃心いへるし
其ふつきし夜のとある命と后君のおうるをつゝ人のう
くとてふゝゝるえ云
私 よ打詠ふ山をつゝ人乃よりまへやしてやれて
私 秘ノ箋ならつゝなし其ノ箋無き后君のすをとをら
ふろをみそてゝり
ふかくもかきしらく
箋 中将乃心は后君の中将と君の君のまへうちいんとて
追加 つくろうてとゝむまりとゝふし
山のたえに入まて月をとすゝめらん国のてあはしてとゝまるしあらや
秘 ねやのいて海といむかの中もきて やまと

この大臣の妻
秘 后妃の母 ＋侍 相沢乃相云よう歌
むしろのうへにてしけてい
秘 昔乃后云乃むこの中ねをくして事をとくとよ
まへ ちかし 歌

ゆるる夜なる夏
夏の乃地の
いてんそ乃きんのことひよりの
秘 大后妃ちかむもめ乃后きみよい る 初 平
いつく地ちち
秘 女房ちち くそとい と乃世ちとと人の名つけて
い る 初 平 歌
河 古年よいつくちちと白とちる僻事くそちと寄
そとち 初 伊 云賜女の通梅 古今作 云 屋
とそ り 貫 童名 内 坊 伊 古屋 い て 南 時
も 色 土 の下 ち 伊 くそとして名 あ り ＋ 心 九

花ちかの乃物語 ＋ 羽 あ り 京くそちちい て 童女
乃通梅 ち と乃世ち 伊 とてみつとめ
音通 ち ア ち り
れ ち と
秘 中ね乃心よ れ 后 乃世と 物 る 平
ちめちのき世そ
秘 孫女 ＋ 中ねの宮 ちい て ＋ 后 の ち り て ふと不
宮乃世と あ れ よ 品 ち 心 歌
昔きく 伊 ち も
秘 后妃中ね乃世 ち ち る
心の世とのこ
秘 い ち き耳 ち と
いてちれいちとそよ
后妃乃 初 琴 ふ ち の ち る ん と 早下 す る し
いまちうちくる て の 人 乃
妻 む も め の 后 ち 琴 い く ち ち て の 世 よ そ

いくとせかしらねるかいなかの中ねのこと
せいこのやうとい南世このまねるこの南世すこの人
花中ねのこと心し
秘中ねこの人乃琴と感しこの
付暁と俗人耳ぬ今不好古所以北窓琴自々生塵士文集
松風しいとこくもしこのやも
付松風入夜琴　百詠
琴中花
秘大臣乃琴花
琴花乃あるかの
かうなるいむこのあつまこと
実堀家し花女の心し　秘花女の梅
秘大臣乃こつかうすこあつこの和琴
念仏しかつかのあるこの
付百事　家生皆捨離専念願向西方
このいかのようにこし

秘中將心　琴
あやしきこと
花中ねの組
こくこくこのこのこの
琴　松示浄土乃後示欲示仏を
きこの作のやとすこは
琴中ねの少きこのこをすのすこいこ
いこくこのこのこ
秘大臣乃氣のあるこの　琴
このこのこ
付ぶくのこのこのこ
秘このこの乃実このこ　琴
実このこのこのこ　琴
問このこのこのこのこ
このこ家このこの彼実のこ
乃このこの体部このこ
いつこの宮このこ

いとおしくてまゐせけり
大臣君乃いつもまゐせけるを
こその笛の音をもいとゞめて
箏 笛には盤渉調なりしとかれにし故にぞ 大臣君乃和琴
と心乃ゆきつしにて物まる
と物には寒や冬乃なかと
笛も琴もあはせ給ひて和琴につきて大臣の御子とも
箏 ちこへ乃調になさまあらくて つけもくきかへに寄やめ給ひ
ぬ
いけふちちりくたりたなれと
花 花は笛の音のひきいるをきこれしと和琴に右君のひきけ
ゆるし唱歌すとに枝折し 拾遺 笛の音乃春かり
ろくきこゆるは花ちりかうとみけむなりけり
秋 笛の孫を唱歌にするをいけふちちりくうち唱歌也
寒 一ツには ふるちりく 笛の唱歌と和琴にうつして
ひきいるを 一本 タリタンナ チリク タリタンナ

ことにそろなく ふるめきこうり
寒 調とには唱歌乃御もと
いとかしうその世にきてこねことは
中ねの和琴をかむやし
寒 此調も同じ
月比物しかへる姫君
婿なり
これしこる
大臣君乃自讃也
笛乃のいとおかしう
中ねのこころなく笛へ
ふいくうしいころれ
花 中ねの父のこと葉也 秋
中ね まずれね昔のことし笛作のつきいふつきねまれなれる
寒 右君乃女の御と中ねの言出るも
上句は右君の女乃言下句は婿君乃御言と云う

おかしきたより
秋よ智君といひかはしけるにや　蓑 弄
さりとてはつくい
秋我身の思ひいつるきたよ
いとふかし
在后君
秋 后君 心 弄
ふしの音よ昔おもしろれてこそ行くは神さびれはし
昔のとは后君の琴をひきし心しあるを心はあらは也
あはしく松やさしねかや
秋かよかくらあけはまきるは忘れかたと大后君の
いとしあり　まり妾
秋芒は淳和の心のまなき事を思ふ老人のとはすなり
は太后君のしのびるなるへしさりの情からふかく
のあきとよそる
あらしつかし
秋后君のたまふまかれたる芳なる花也　蓑 智君のたまふまかせぬを云

萩の葉よかくねかうくよつけてそとつれなるかな
花 拾 おきのそよ吹きても秋風の又たの里よかくらすらん
しく葉これもは淳和君の思ひをいふなし
蓑 霞川さは中将の萩のそよ風のそよつるやうよ細し
又すのあるともつしく思ふ君智の心也時秋なり候也
人の心はあはれなる
蓑 白氏の事よ思ひたつ所也
さりとてきてはその夜によくそうしあはれてよ
花 后よなしあはれてよも也　蓑
世中とおもひそつれし
よ智の世世を思ひすてる所と云
あられのこりの
蓑 観 ミモノ 一字とよめり
たしきい人のこて
蓑 后君の女の事也
くあらね人へかくし見て旅寝

此智君をとらむすめのやうにみえて他人といふ也
なりし
こゝにかくて
箋 賽(カリユウ) 執着し乃やう是なりし執をとるにあらは
ある時智とえて依怙見え出の心にしとへり
いさたまへ人やいきたん
箋 后君乃智とさ継へし
むかし母君のとなりの
箋 智君の心し智乃母や乳母の事也
とらへまうてきたりしと
奥 長谷乃観音をつまりしなとしといへりとはる
も心し或は仏乃御とうかりみはいくなるまいあり
てんし
いちらくへまゐつて
秘 入水をんとをしもまゐりけりと我身には観音の利生
しなきをといひてみは波浪不能没のちかひもあるなれ

いかなるへし
奥 身をなけんとをしもまゐりて命をたへ之
河古 命をまゐらせ抱なれは何の王命のなしまし
私 康公別命
心こゝにきさ海のは
抱かれはきしはし
観音乃智の利生なきものはなにいふ事なし
抱よろ是なりし給人なれりと后君の事也
そのふてせまるうるの事はいふては一とも二かとの枝
河古 ここは二かとある枝 二かとある枝
死 二かとの枝は白菊たねのふうと出みや又も道に
人とはふ命あまりて后君のたらかれとはいれあて
なるへし
秘 河汁命アリ花菊第二へ事は白菊とていふとしてけ統はあ
まうあるに心はなしをとふるまし枝の事へはこうそもりへ
うすと也

箕 名寄ふてなりへてもくいるきハうき流石とせられるかハ
たつきへ気りてし曲なし其花鳥ニ二本の松ハ白蓮と
云るれハ不用し但け読して然れハかと 箕
私 二本乃松ハ旧流の本とハうり大宰ふみて然れ
二りとい又も途きもしんと
奥たつきハ小町の乃ふまていつ 箕
私 花鳥ノ箕強不可用と
といあてふるよ
后君のたりふれとめるし
左右夫 而尹川乃松のかとうろ云ふ孫としてきこよし人よまへてそみる
花 后君乃在ふ七るふし人ハ曽后君乃むそめ乃るまと
いつ了
私ハ 舅君祖まてしあれ王乃子乃とくよいうてき
箕 舅れ心のうらハ云ふ孫とし后君ハむつし乃むそめ
みよまへてみるよ
となきりへと

箕 清しゐるまなられたる　私 箕まて地れ
たのれてといへと
私 旧流へ人ミ云ふしまいまへしとき
かね乃后在也へ
箕 花也へハ后よあるく伝れまりハとてよこ人あるれ
ふ乃りし人ふらふ人ひとり
舅乃心詞ふありし人ハ后君し
中ね乃御ふこあり
后君乃むこの中ねし
くるしきまてもなつめさせ給ふ
私 女ね后乃詞し
箕 かね乃后在也へなそうらへし
いとあやしくうれしハありしくそハの給へる
暑乃下よまへありしうき 舅君の詞し
私ハ まへ乃詞よう伝るさハし給へつまつくまるよなきと着て
あやしうせ給ふまへさやうれるまさくきかりしけりしハ

いとこうもきさはなるこれも
ハ心とうをこう
ふしてとりもいてせんをさせてまつこふ
花姫夫ハ羽の石と碁とをとらせ給ふ妹者よ先をせ給
まつこうまけこうこうもとるこうこ
いとこうるこれも
深あいかハ乃石こうもよかのようつきこ
又てをこうして
付平直
石こうとくこうこうを紙いなりこ
碁碁のあいかハ乃こ
かハ乃御碁そいこつこうこ
碁石夫ハ碁のこ
俗名の云
あれも碁のようこ
きせいことこよりて

碁勢大往　肥前椽橋良利法名寛蓮子囲碁好手也

備前椽梅良利肥前國藤津郡大村人也出家名寛蓮為亭子院殿上法師亭子法皇山ふこ時ゆこしもこうこ大和物語よのを作り碁乃上ゆる碁或献之号抱朴子日圍碁者世謂之碁聖故嚴子卿馬涼明有碁之名也

或書曰唐乾造碁敎其子冊朱一記曰不然碁出於戰國之時云云

梅良利碁　碁弄見にの

御五ゆいまけこうこ

碁俗名ハ乃碁御碁ハ石碁をとりてこ

きせいが碁ゆい

碁俗名をとりてこ深あ乃碁をとりてこ

碁俗名をとりてこ深あ乃碁をとりてこ

碁と俗と石こうこうもいて俗名のこうこまけ碁こ

[illegible]
秘 習夫のこと
むつ[illegible]
業裏と又[illegible]といへ[illegible]
[illegible]

かねたの[illegible]
[illegible]
付 毛詩曰 白珪之玷尚可磨也 玷メノキズ
明月之珠不能無瑕
弄 只玉のきずのやうなんと
業 何ノ流ノ及ノ[illegible]
[illegible]
美 [illegible]
[illegible]
秘 何[illegible]
美 早下のこと 秋ノ夕[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

中ね

ふしぶしの秋の月のかきあつめられたる地下の人々のかしこそしも

中ねの今宵の月見は地下の人々のあつまれとそうかの

なるいとうとも地下の人々それ心ゆるきるとも為

白かりしろよ今宵 弄 筆

御心しらるしねいき

筆乗よ地下のあるの月のあるとも

まこそうしきうのいき

筆 后宮かの世孫月のかりよ座今宵人のるきといて

とうきりのとうとうとて地下人とかいそうそう

秋宮はりとうあもとと早下しうる我月いかのるき

（もなきとも 筆

筆 我月宋石のとくしして地のあれもうねと人を地下

とはうんすると

りてあれと

筆中ねの心

いとう出るとときこうこうせどこの人々とうるきまてうう

ふ

ふ人々こうる月見ときこうこうせとしていて中ねの

うるもる

おいの人の御ろしう人孤よろう

花大后宮のうるいうるれる

筆 少ねの后の月今をていうるるるるれる

うるるれすなりのれうん

中ねの紅

あまり宮ねの人うもげよ

なるけくうと宮人の大るの人うとふこうきと

中ねのしの紅

こまのなるるるいいてうハ

筆ふ人々の月宮あるる乗細よいうるねど

うとうきよしの人の人のとくしきう海の月と

花うれいあい宮のうの人のとくしきう海の月と

物所まうて孤ともるて宮院まてるるのあい孤へ

きと中ねれ乗るる

うつぶしてゐて祈る事原
筆 暑の名所
ふしまぐれい
大石寺
びきしつて
筆 老人ともの名所
いとうとうあるうがつて
河獨鈷 トツシ 山市 赤鼻
花 出市 縁いまく動はせて花
私 本縁なり 師流 只方をなんとそ人のゆた
よ一橋の事やうきをみてたまりたるといふ事を流
しうるの事とこのなつて用ゐ筆幸山筆何の書
よみてゐるこゝ絶けこのたるなつて暑寺とすれば方
となりとて出人の名
くらはとからゐるつけ不寺よ命ありて大石寺や
こりきとよみてゐるつけ
こりきとよみてゐるつけ

花上よみてゐる姫寺の名所 幸
私 童の名所 暑寺よりて大石寺の名所
出て山中ねよりて又中ねの名所 筆
寺けなくむりて
筆 暑の名所をきを中ねの名所
こゝろしくこゝろ十
私 共ねの名所
ちりきて十 出て
河 咲願
大石寺の名所
いとうとうしてゐる
私 まつけをたしてゐる 筆 付
おのりとりかきこゝ
筆 こゝよりたるを付ゐるもとちさらし
もつしもなそろしもの
筆 むしよ中ねの名所 山大石寺のの名所

付 鼎

[illegible]
花冥途まで思ひ[illegible]
実我と命をすつる[illegible]
必思ひ[illegible]
[illegible]
秘[illegible]
[illegible]
秘中[illegible]
[illegible]
秘蕚の事
[illegible]
秘自[illegible]
実自[illegible]
[illegible]
秘梅の[illegible]
花自[illegible]

[illegible]
実[illegible]
[illegible]
花[illegible]蕚[illegible]
秘蕚[illegible]
[illegible]
[illegible]
蕚[illegible]
[illegible]
実蕚の事
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]て者のなくとまりていとうれ母乃御ふとまりて
きしくしんい

行碁今嶋乃ろくと[illegible]なくなりけい文[illegible]母と[illegible]
今業夜乃あくほうりけ[illegible]
花鳥と引今アリ行碁今代不用く位け今とうほう
[illegible]花七ゝし夜乃あくほうりけ[illegible]
[illegible]人のつゝの天母の[illegible]
引今よ及へうに者[illegible]
[illegible]仏法をもきうすいは七夜乃園十まうゝ[illegible]
私花業ノ業ノ[illegible]
[illegible]てゝ[illegible]き人と
こもきとてし
者よつれてゝ[illegible]きこもきよあるゝよ長ゝる
[illegible]の人[illegible]の内とて人ゝあゝくゝ[illegible]
[illegible]
業者碁七粥をすむる

まゝゝしいとゝつよなく
業陪膳をゝ乃人のつきゝしゝゝ
いとゝゝなし
業七貴をゝ七
僧[illegible]
小地[illegible]
をにゝゝ
私[illegible]人乃仮しゝ心
一京文乃御物のけ
業女一文
太乃引ゝ七ゝ位かゝ
業多者の臭
きさいゝ乃文の御ふと
業月ゝ五中文
[illegible]
私僧[illegible]乃面目ゝとゝゝ
業

[illegible]

私　習者の心　筆

[illegible]

私　居者　[illegible]

[illegible]

私　習者　[illegible]　大居者　[illegible]

いむとうけ侍る

筆　俗なりも戒とうつぶるもの

[illegible]

筆　[illegible]

私　大居者　領状あるし　筆

[illegible]

何　[illegible]

[illegible]

私　筆　[illegible]　侍　正遍昭

私やよいまだ[illegible]

[illegible]

私　同頃とい法師の事　花筆

[illegible]

私　侍　[illegible]

筆　母は大あるし者なる

[illegible]

私　居者　[illegible]　筆

[illegible]

[illegible]

私　習者　侍　[illegible]の頃

[illegible]

大居者の例

[illegible]

私　侍　[illegible]　筆

[illegible]

侍　[illegible]の頃

ねうちうちて

暑寒の事

ふいてうてまつてそのてを

秘伝故の初　第

第不意しらうけぬ

そのうちをみて作ると

第法師をの作しふ用とるて此のかたをふ

四あるねうち

世をそむきをる人の

后夫ふうの中よ暑寒ぶ

世中よ作らしと

秘暑者のをすし　第身を校人とそうる

ちうけよ物とを穿ぶをる

后夫の初人ふうしをふるといて

思いの人をてるうしつ毋作故

ひのうちをていあしと

まいりもふ紀とをける

秘伝故の初　第

ふををて心をかうし　ぶりをいつをちりセと

要第木巻にもいふ

第もふ紀をきあるき人の好毋物の心あるをのてうて花ふの

ちるしいと

いとふいつくしき物よりも

第世の機いなつく赤のとをぬ心退くをきまて不知れ

ちるくしく作しうう

秘暑寒の事

第やうう木の巻やの世の暑とをうをふまうて

しうるうをうて

ちくなるをきれのうやうくらいく

暑寒の物をすをく

あやしくをうをうち

秘伝故の中し

地のけもさうもなしてゐるうしつ
私ハ家形し時の事ハ 平
業ニハなくゐるやとのこねんなれとハおよハるる
あしき地のこつけうあるふ
第霊乃るる
こ形乃いとうしあく
第地乃けのく六ハもるて心すからうて乃れとあ
しきるるハあるふ出家の心しとハ三寶のなあ人
るるれハ法師乃身にてどくトつ(て)きるるもと
信敬の説
ハいむとハいとやもく
私ハうう信敬乃説
私ハまれるまれとてうう信敬の説とも
きうるるまして
私ハ請小て急るるるれて第一京文の法のけ敬
まうとうまう

敬法乃時家ハ家ハうとも
家ハ次ハしハ海ハけとと
家者乃心中ハ七日をおはうの石者還ハ生しと
居者をつをうしハ出家とハ海ハけんと加れて
家乃いとく
みうう心ハ乃あるうる乃
私ハ生ハうるまてとて心のうちハ心ハつるるふ
少しハしハ居ふまてあ
いとくるしく修ハい
私ハ生ハう家乃説
ハ生ハいとくハ
信敬乃心
悪やとけぬ
私ハかりハるまつもさ海
うしやすまて内ハいまハ
第休息して家内をとと

いとうれしくぞ
筆者乃い
をしはとりてそのそこのたこ
いとゝ大ところ
秘信加のもしてす
そもめそのけそもしこそ
筆宮仕院まてそ者とそ
けよいそもそ
秘宮仕まて見つけしこ
そもしこまてしは世よかはせ
筆
筆女房乃そもそて世そ
本丁乃そもそ乃そもそ
筆髪とそ本丁もそよそ
そもそみとそもてやそもしけ
筆はそもそ

かはの乃そはせそもの
秘信加乃つまはこ
筆
加はそはそ
者者の出家とそ
かはの
筆こもきが加はそは
まそもしてきてみる
加はそ
ほうゝ乃そ
秘信加乃衣
筆
筆信加の衣裳
そや乃はかはこそ
又母乃そをはそ
いつそもそ
秘加
筆母乃かはする

元亨釋書に云く拾遺記よりける
第六智者の心をあらはす
あるあさましや
私かれるものを
あふるるもあり
奥るきしををるるきつし
うつうつうつうつてい
第五きこと
るるるるこがい中
河流轉三界中恩愛不能斷弃恩入無爲真實報恩者
私流一一第
たちたちたちたちたちたち
花恩花のたとえ
私恩花不能斷とてのときて我身いかやるるしるし
るるるるしるるるるるるる弃乞あれ
親ようけるる身とくくくよ捨るい事孝あれをもて

無爲よりいる人言実乃報恩とと報の明来報恩ともと
ちかかるる恩花いるるるるるる恩乃心中ろ
ふふいい僧拾ろ紀拾
芝戒師乃体式
かかかか

実
なして仏とあらしめんとなり
ことなり
三教人にいてたるまつる
僧俗なし
仏教我き法を
皆人々乃者実しいの
花をとるつるほうこと
人々乃とをとてし
といきしりかをうるとて
実は文字法法
但法てもしてし
なるとしたいもく
私
者乃心
世をふへき地と
現世乃るのようなる
てはれすすて人乃
実者の心なり

おかれほやし
繁乃すえのうちうれほと云
くう忘
花かくふくしなてし
私
人々とをちる
実
人とをちしくくてかすほ
乃しくくいき人さ
実心中を乃るとくくといいんとるまと
乃るしとのこけきるまと
実者いるとをほとるけきるとい公教の乃と
手習実
なき私を乃とし人とを乃つ
私
者実乃人生之乃とし人
実
者を乃を捨ほる
私乃とし人とをとい者乃我乃とすつるこ
とをも乃すて心なる
乃きりつるそうと
者しほ初

又とも賀茂
なりうと云なりに世中とうもくもうむきなる邪
業先し同心地とも
実式しあ首同心とうとあつ
なるつしれい初しに同すらうるとうきうも
あるれ心
仁形正ちのとと
私同心なるなり
業初りりるいうまて同うと先分のお数のふおよ
なきる字の一字二字ちられても心のりりふ保ふ
考どる次先初りりても同心
引保事をいいてりり
私いいりる
業中ねりまいるなりたよりふ保事とる
心をなりりりる
業中ねりりりと云あいすふ
たりよみをる

中ねりかねたをよりりりりる
りりる
業やりて中ねりは使ある
きふりんりるきい
私又りの初
中ねる
きりをくこ紀をるんあふあのりとく仁とそるふ
私け世りの岸りの心弄
私下句は中ねし数心のそ
思いりれりりてこりる
実后よりりる心は中ねの又とはりりてりりる
ねりあれるれと仁やたの多重いくるりりて先す
なりしある
たりりりる
りき木は舟世世とすてりふれと早りてく世それ
すりれも仁形りふなりる平りき木は舟
心りり花をくをるれも多波よりりる祖とと

ごまうの今はゆきてとうと
てるしうしをゆくるを
業多智とうけるをめ
きうつてうこそ
業多智尼の詞
きそうこそ
業かね石をのつ
めうしきゆいてふるく
私中ねの心をる
ねまうてのへ
業石尼をうをうを下四
かほうをまいすゆきを
私石尼の詞
業皆必をこそすゆるる
うをゆそうをうきよ
石尼のもきうもとうし

小まろひく
石尼のるけくさ海
海よのあやのやうしくしるき物と
私石尼の詞
業多智の石よるうほとたのみくよつをそゆる
の行水うく寄うし時実母のなけきこんさ海と
まつゆうしてうかまきこと多智の事
いと物をつるくそ
石尼の詞
うちきけさて
けい小御　業実
あほ人こし
小飛よ行る人こ
れでのしてもをう
業信敬をて法験れ
とてく

小御
あほ人こし
小飛よ行る人こ
れでのしてもをう
業信敬をて法験れ
とてく

いとくいとたうときものよ　秘業乃内よ信敬除とあらしかて
みそかりのべさせ　筆御供法と又七夕のへ行とせかと
よねしさしたもの　付夜居二間夜居　私一京文乃夜居しさしたる
さしたしごうしる
　　因と白此よりさしたる
加形　御化（悲）しかしまして　筆
私中文と一京文と　筆
奥中文乃女一（京）文とかなし化（悲）よかし海と又云信敬め
　　因し　庭表乃御化（悲）しる
むしさしたもの　私中文乃御因
世中しさしく作るまして中
しらいわん　筆今年来年と信敬しの合ふ初
　　私信敬乃刻と　筆

所地のけ地ふねきる　筆中文乃信刻
いとあしくけうれる　付布有市　私
　　筆信敬乃刻
かしつしる
私信敬宮母とつけし時のるとしる
弄母習去尺つけしの　付典乃始よきしはしよかく
　　筆
　　す妙
別しの次初
中文乃寝人ふ人とあとしる
大ねしし拓寿ね乃筆
奥うしけて初しる
　　筆
蓋乃人とおしそ
おしさせる御しし
中文乃仏氣久といしき
と
そう女人　私女人　筆信敬乃ゐてくしくと母

とのよ仕へるあるよ女
僧敬の母や妹とて
第八乃つくしふきうつ
多智丸乃ほよりしる
多にいしいもうと孔出雲のめ
第僧敬乃妹の居れるとも系図よる
うせうとそなご
中ねのりと妹宝居丸のめ
かくなりみられて
多智丸居しかるに
こ乃事ねそこ
第ちと分合ほ不乃あるへうふて此事ねそ乃ちくよる
やうて蓋乃ゆてくなる
ちてそこもやうこしい給人
秘僧敬の羽七事ねの羽よ
こもやうくんとちくなる 弄

ほるこ所ふ
秘きいめて田舎人乃中ふあるき人あるこ
里乃中うりかけむもしれいすいこ
仏龍女成佛のこと 第 元
第 弥女成仏のまと俗性ふ何もうねとこ女乃
御ふ乃れて弥文よ女人成仏のまと又多智丸女人
乃れこ
つこうのよ所乃人
秘忠厚乃人端正ふ所人よ生こ
第生人よ生れてもうちうしうる飛行不具の不有
一婦きいくうこうこ文そ乃飛行あるふ所
こ

こ乃ゆ乃のこうこう
秘宝ふ乃るるくしこと中この学うるこ 第
ゆ乃ふるくこ
元事ねそこ

平

[illegible]
私 二条院より[illegible]大夫[illegible]
もの[illegible]
実 中宮亮より[illegible]小宰相の姉の
実 [illegible]
私 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

の紅ひさあり世せて
花ちりつて紅ひとをまらて接合あるとおもうと
いまゝ〳〵ちりこうしと
嘉祥（信敦ノ下の句）
をうるき物よ智恵ゝ〳〵
私すてよ宮仕えしるき人と言ふ
るしあるいとりうと
いとをつゝくうんかう
美　嘉祥ノ世のとうと言ふとうてをつて
くうのあ心をてゝ
私物ノけよう仕ふしふあうさ函とうと言ふと
紅へるとよし宮あノ心よ
信敦ノおくあ仕ふ〳〵
美　是ゝ〳〵是深衣のあ
信敦の句　嘉祥ノ世の
あやうも物きぬ

私信敦卿布施よりうの（ゝる物する）
美世一京ゝうノ卿布施物
あふ〳〵信人ゝきゝ〳〵つゝ
世間ノ栄花よ紅ひまつゝ
美世上ノ栄花ノをうるきさ函といしをうる
ゝあノ人いのちハ栄ノうすきうゝ
陵園ノ妻ゝ〳〵顔色ハ如花命ハ如葉ゝ薄（キカサミ）侍奈何　白氏文集
陵園妻顔色如花命如葉ゝ君恩ノ落きるゝ
るゝと如花ノかゝよう
陵園妻よいるハ命ハ葉ノすきゝゝ君恩の落
きゝ〳〵といつをゝよい命ノあるゝ
つていいるゝ
私ハ陵園妻といるハをうゝ帝皇崩御の時ノ陵
ノうゝよゝつゝと文せてまゝ
とて紅ハ白氏文集ノ中

松門（アカツキ）と曉（アカツキ）とをいとうて自ら徘徊（行歩）す

松門曉到月徘徊　白氏文集

陵園妾の陵とまちうてあるは什方習慣の

くせなるべし

第　松門は松の木のある門なり

要　徘徊とは自ら行歩する

ことあつて仮に陵園妾なりし。去恩

多習慣に小野とは

什方習のくせにて

陵園妾に似るなり

学ぶべきことなり

習慣の心つよいて僧侶の初とす

第　白氏の心つよいて

柏城伝日風葉琴　白氏文集　私皆つきぬ

ふるいなり白氏

山林の習をうしなはざる風をもつてまことに

ふるくもつて柏城伝日風葉琴の心をもて什伝志

皆陵園妾の心をもてうつすなり　第　弄

第　柏城は柏樹のあるなり

要　柏樹のあるなり

習慣をもてうつすなり

ふるくもつて

私　ふるくもつて

習の心つよいて僧侶の初とす

山林の習をうしなはざる

私　ふるくもつてトアリテ階ヤ

私共語り方

弄　僧侶はいとやうなることの

ものの形ばかりでもかきぬすむなり

美字橘巻に谷の形をとるとあるに同じ

こるたのみちなり

小野は京坂の横川の人

くろたにの
けい黒谷　穀山より
穀山より五十の別所にてあり黒谷とそ乃一所也　私ニ
山門より隠遁乃所也
いるきるもいんとて
名者未詳乃事
ものしらぬ乃ことしらく
第　紀第
心らしけるん人と
私かこうつるるあるて曲とあるまし　此名者未乃ゆ
なる人なるしなる
いとまあるてつまくかる
私中ねの初し　第
立つて張ちもしつき
第　第第ちつと
私昔年とてき時のゆうに張乃しつきとしてを

立つてとそ　第　けい第
木柏乃ゆうしの山のかるよりちくるき佐にそるき
私名者しさ由とつるるこ心とあ紙とと
第　名者乃名山の事
私木柏の名ゆうし名者の実乃ゆのうせうるとうゆ
き佐ゆうとい名者の名山の事といへるれそ乃
第　所つよまの人のきれつ木ものとんつ花そるうき
いゆうしるき人乃
第　名者乃て
うしそうゆらきてうしそうしは
第　少ねの名のゆはうんとしてうる
うそにしゆのあや
第　うそ名者
私名者乃ものうしゆ
そうゆ名者
第　くすそうる名乃つ

うちはいつゝの扇と
付矢扇は有五色三色は桜の色なるもあり
くしい
花さけ石の髪のふさ〳〵はゝ扇といろもそろふる
秋髪のそうれてすそのひろうろとうろ
美みしうき髪は似せうろ
美檜扇とうるやうてむとうのあるる
雅は色とれて
美是は石の海
うちみのうどは
かねの石のこし
ふけ紅の男
中ねのこと察する
けうのうりはあきふ
美引は石の完れ
いとうく石もそう

美中ねの是はとうく見てかうきふ
見うしうしあやまちの
美是は中ねのとうとうやうは
のうしう板悔する
けいはもきてはゝうれし
秋中ねの是
中ねの完うのそきてつみもあねうきこゝはゝ
さて三のきうふし
うるはゝあうえ
あれうちうきゝとうしうふゝのうつはゝ
うしうふ
うの人のはむまあ
うれうのうふゝのうせうゝ
とうあくうふゝ中ねの
うしうてう
美石のうしむつはまりゝて中ねのうしうんとう

[illegible]

秋中ねの月の詠

[illegible]

[illegible]

秋原雁声の月すみわたるにこたへて

又まひとり

秋花牙の月のもとにむつれいるまもなく

[illegible]

秋后夫の月の詠 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花中ねの月の詠 [illegible]

秋中ねの月のよの詠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋中ねの月の詠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いまいうかるよ

秘 はせのうすのうとをいへるうたに

ふるさにもせうそこしめして

第 中ねのもかいもせうそこある

中ねのうかるのせをそむきうくる

秘 中ねのかりしかをとしかをとしかをと

けよ岩ハ苔むすまで
私白雪ハ消てつもれる白雪ハ後人ハ
ゆ[illegible]
七年引てあてあ
[illegible]
秘蕙七歳の時　筆
[illegible]
筆字法いとうれ川者
[illegible]

私小野ハ山川を
[illegible]
[illegible]
[illegible]
私白の去年ハ
筆白ハ今年ハ雪けれ水ふるふて
[illegible]
[illegible]
[illegible]
秘蕙白ハ
[illegible]　筆　[illegible]

筆
[illegible]
[illegible]　百歳ハ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

秋歌と仮名書

出るくるしてまつし

業平朝臣

君を思ふ乃ぶ雲一日の業とそくらは

香ふかき野乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ

秋歌

君を思ふ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ

業平朝臣

若菜つむ人の袖と仮名書

そんとそつむるとしを

君を思ふ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ

さておかすんと

君乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ

みるしあるとき

君乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ

春や昔乃ぶと花乃ぶ

河内

月や昔乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ

業平朝臣

白雪乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ

河拾

あつさ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ

秋

白雪乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ

業平朝臣

白雪乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ

業平朝臣

花乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ

やよあるとてまつる花

秋後夜

後夜乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ

業平朝臣

閑仏乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ

と樒よくいくらてまつる

業平朝臣

てあまつ人とて乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ

業平朝臣

蓮乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ

時節乃花

業平朝臣

園乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ

私一任の間のこと　筆

去年ちと年

かけくしきゝ化

私大后宮かけてゐること

こゝろのうちにてひゞこ紙

紀伊守の大后宮の事と云

私后宮

幷大后宮かけてゐる人

こゝろのうちにてひゞこ紙

紀伊守の大后宮の事と云

おりゐる事御さなと

大后の御命いくらくしあるねと任国は行てゐ

てゐるよ見てまつねと云

ゆゝしきはて紙

紀伊守父母なきゝ

一ゝしらとそ御ゐりよ

筆大后宮とて

ひらもの小方ゝ

花　常陸の小方八源ゐ乃美の母ゝ

私花宮　紀伊守ゐ乃母とすゝ

ゐ　筆

美　右衛門乃ゐ父の常陸の小方

ゐ乃小方ゝ

ゐ　紀伊守の妹ゝ　常陸ゝ

ゐ　月ゝ

私后宮乃御ゝ　言伝ゝ

元ゐ　ゐ

私大后宮ゝ乃命　危毫ゐ

美　常陸小方ゝ大后の御つけ

私ゝ常陸守国よゐ

ゐ乃名ゝ

私ゝ　筆

常陸乃小方ゝ耳ゝ

又ゑまかりのうりて日こゝろよ
四ゝのうりて八日こゝろ八ねんとゝけるもたけくてこ
八ゝるものとそるゝ
まつ一とゝろ八一とせうとゝ紙伊勢こゝ
芝八ゝ所の方ゝ
その法ゝとゝ
多智志
こゝの長又うゝ紙よゝ
宮本の事
その法ゝのまき
園忌のまゝ
ゝ
ゝしゝゝの世の法ゝ
紙伊勢こゝ
勅
一ゝゝゝてゝ
一顧問ゝ受領ゝ作付ゝ紙伊勢ゝ薫物

人ゝ
せゝ紙ゝ
居志
ゝ
ゝ
私織
しゝゝ
私
ゝくゝ
茅
ゝ
私八
芝ゝ
中志のゝ
この大ゝ
茅
いゝ
紙
居志のゝ
ゝ
薫のゝ

[illegible]

実方朝臣

私家集より

実方

[illegible]

私家集

実方

[illegible]

私家集

[illegible]

実方

[illegible]

実方

[illegible]

実方朝臣

[illegible]

実方

[illegible]

実方

[illegible]

実方

河尤大臣一上と云ふ或一の人とも云ふ又桃梅家
一座宣旨故侍一人 又謂一乗
ふ殿と云のこゝろ
業薫乃事
とよふゝき心とるけなふ
和多習の心し 業
和ふゝき心とるけなるとは純信と多習の心なり
光孝ときて久加院の法あるさ
光原氏加と業院
ふ乃ほうで
業光原氏の原ふ沢とし山ふ孫なて人のめそて
まゝくしなる
太乃大いとのくの法
死太乃氏とし加といふれとし
くある因縁つし
和薫と多習といふ也うと云初し 年 業

れいふらしいとうるしうもうとくまて
河宿徳
業又多乃事をいふ宿徳ハ行法ニしてを紙たるし
ふ人をいふ
をしへふるうよ
多乃字あふるとをしへていいたるやうに多習
のやうての心中し
あれるしかうしくあ
多乃心し
方乃ゝもこの世乃ゝくもあれ
和方乃上のるゝと余不まふふとをなて多よて
し世のまゝくし心れ
ふれ和ねよくれし
和多習の心し 業
業薫乃ふれ和ねを心
いくゝくふ乃内心のうち

蓋の仕様とうれうつくしかりしをとて母の号れ依
まうしんとうつくしきさまとみてきてまつるハ
筆紙墨のさほと蓋いたりたるとうめいとく
かの人のいとつけしるすなりとうめいとく
紙伊勢の人しいつけ　法華の開忌のたるの布施物
のきぬとい者くと
うつくしくしかもきたいい
花きぬ人の人そ初るる
うてか用ゆまい
寄の人とうしの科のきぬなれは
后夫いそくまとうちもて
寄の人ちあるといつるとに后夫ハきぬの人い者きと
とうして立あつる
れなれ井よ様の人とも
布施の科のきぬれ多るる

はまいまいほとそ
寄とうし
西東夜の人るるかやきうしの世人きうよ袖とけてこのうん
ほ紫東とうて昔と思ひほ長ハけとるる
我方の開忌の仏事の料なれハ昔と言いてあ
れるる
寄夫の午ハ心ハ后よ物ほうほうとて昔
とやもうんとと下のハ　ハ下秘用
物のうれなきハ世なりれハ
我方のあるほとりきてるるとてあまうれるる
とうしハきうやとの寄のハ
るほうるのるうしてうれ作うと
ふてるでいるかの人めりしほ
やうるるかりいそくのつけて
ハきぬるするかよつけてとる東ハ素ほ寄ほ冬
受領なれいやの科のきぬなと用をするのやうの

[illegible]

私 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

私 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

付右近將監

美濃守源將監

薫大將右し

[illegible]なる原の中にまいりけるほ

美濃宇治橋の巻より薫の[illegible]もちて[illegible]まゐり童

[illegible]

秋の月

きさいの宮(まいりたまへり)

薫の殿中宮(に)奉れる

あやまちしたまへり

薫の殿地位(に)宇治の[illegible]

[illegible]

宇治殿(に)細[illegible]

[illegible]

秋の末の巻より宇治[illegible]

[illegible]

我心のいくるまゝに雅しあやまちとも

[illegible]

花の盛の思のこと 巻

秋 大夫宇治殿の[illegible]

[illegible]

美[illegible]

[illegible]

きさいの宮の御方

付近衛一時の[illegible]

秋 宇治殿の御忌 平

もつとき世のあり[illegible]

巻 大夫の任宇治殿の[illegible]

[illegible]

秋 [illegible]

平八宮の道心[illegible]

[illegible]

私 信敦の御せしうる 筆
私 宗中文の御心
てゝ[illegible]おそ[illegible]しき地やそもん
私 中文の御紙
字治の御
れうちつきゝほをそてうと
大夫宮乃ものうちつきゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]かくの御
蕉乃心のゝ 筆 弄
私 中文木立のゝほと山人と云ものの御蕉
いと御に只今つきうせほまてそ[illegible]ゝ[illegible]
ものゝ心 蕉乃心
[illegible]人
蕉乃[illegible]
うせ[illegible]ほしなんいてあやし
宮乃妙楽なくものしを
れくしのゝ[illegible]

私 中宮乃月文あほ[illegible]
文乃地とのゝ
筆 白文乃ものと中文[illegible]
くらいもゝくきゝ[illegible]
筆 蕉乃[illegible]
くきゝと中文乃[illegible]て[illegible]
小宰相よ思て大ねか[illegible]
筆 蕉のゝ[illegible]ほと宗中
作らゝ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

やはらかきやうなるもの
乃ふ
第中文の小事れの
かまへにつませ
私小事れの紙　第中文とうしてよ
ふ
私中文の御紙
異白薫さふ
みまつ
花さ
ふて大ねよ
出
と
私白文の御事あれと
異白文のる
第白文の事あるかの

小事れのやりて心ゆるふ
立
私薫の事れのかよ立
めつ
第薫の心し　私
文のといせ
中文の薫
文の紙いせ
薫の中文の
れ
文薫の
中文の
うつの人の中
私既をの
ふ
第人ふ

第平

第

第

第

第平

小寺和さとうしるべ
あるじと云しに人のるすよいて
業 蓮乃をとこ〜宿あるじとは
その人いかあるやと
蓮乃いふ
かの信濃乃こゝろ
寺和の羽宿あるじ
而とゝ〜
業 てゝこゝにて宇治のゝ
業 宿あるじ乃うせ
ゝ〜
私 蓮乃性殊勝 業 上箱しき
かゝ
私 白玉
業
号入よゝ
宿あるじ乃
さなゝ
私 白玉 中玉 蓮
業 白のゝ
中玉
玉
私 白玉
業 蓮乃
くゝ
なき
河 黄泉 冥途
花
黄泉ハ日本紀ニ 伊弉冊尊
陽神
我
七
仮世乃
平
業 今生

秋きるいつこハ寒逢そのまうせ侍人と云人しと
花の紅ぬぎ捨てあるんと
業中文又落しうつ毋ましまてのの紅しと
みうつまき次の蕙の下の人
あさましくてうしないの作ねて
蕙の中文侍所の下を又下出る
伝とかとろくくくくりてとるる
秋侍所の性とと紅 業
ぬきうるつうき所の面ましに性といつ
人のうつ作やうて
花侍所業一と方をみ人と侍人と云て作人
のいくやうの物のけうとしうるいうや作つん
と蕙の心のあ心
文の伝とをとうつけるてに
花白文の侍所心 年 業
かのう又さうんとてけ紅て

業白の付ものをつけ紅り蛙色るやうの おかさんりてよ
らもてかあてるうんなく白のるをかのめしるも
侍所のうつしよ
中文の所初
物かそろうしうし歌の
業歌のるて物かそろくてくしきっ紅るよの紅
きこうんうなうきの侍心
秋白文の すきくしきる 年
いとうろくくうき物よのこ
業物文ゆへうくしき花を白ものう紅るい心うの花い
侍そ三つせりさんうと
心くうんとの紅のも
秋侍かや心
年中文の白文の所をるうを紅るやこ
いとともきの心ものしは
花大文の侍心のをくく紅のこよ文るんをもう心
董

[illegible]

毎月八日八宵日ハ始メテ茅師ノ縁日ナリ

中壹（ナカノイチ）ハ時々茅ノ祈ノ[illegible]

根本中壹（ネモトノナカノイチ）

延暦十七年傳教大師建立ス本尊茅師如来者大師造立ス[illegible]ハ梵天帝釈四天王宋仁公日光月光菩薩宇佐開白十二神将御壹開白被造副ス[illegible]

[illegible]

横川ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

はるそのの人のゝ足つけゝる
秋月花かりしけるゝ人の奥にて有てなと
ゝちことをほゝ乃中にて
業吉黄ゝちゝと
うきゝるとゝきゝつけゝ
業秋ノ業ノ月
みちすゝかりゝちれけゝと
業蓋乃心中ゝ中雲乃ゝすゝ